

| | | | |
|--------------------|---|----------|---------|
| 授業科目名 | 内部監査の実務講座 | | |
| 担当者名 | 近藤 利昭 (実務家教員) | | |
| 開講年度学期 | 2017年度 前期 | 開講キャンパス | 目白キャンパス |
| 単位数 | 2 | 開講期・授業区分 | 週間授業 |
| 授業の概要 | <p>日本を除く先進諸国では、内部監査の業務への女性の登用は弁護士や公認会計士と同様多くみられます。内部監査は成長性があり、やり甲斐のある仕事で、今日日本でも女性の進出が大いに期待されています。</p> <p>役職員の会社資金の横領・着服、経費の流用やキックバック、粉飾決算など社会の信頼を揺るがす企業の不祥事が後を絶ちません。内部監査は専門的な知識と注意深い目線で、社内各部門の管理体制を検証し、これらのリスクの発生を未然に防ぎます。また、会社のしくみやルール(「内部統制」という)の有効性と効率性を定期的に評価し、助言と改善に向けた提言を行います。このように会社の経営に幅広く貢献するのが、内部監査の役割です。</p> <p>内部監査はとても息の長い専門性を保証し、内部監査人に求められるのは仕事への誇り、そして監査の知識に裏付けされた説明力、最後に不正を許すことのできない責任感です。</p> | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | この講座は、内部監査の仕事をやさしく解説し、監査業務に必要な基本的な知識や技術の習得をめざします。 | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 内部監査の業務と成長性—ニューキャリアの創造 (特別講義) 2. 内部監査の専門職的实施のフレームワーク 3. 内部監査に求められる独立性と客観性 4. 会社の内部統制の定義とフレームワーク 5. ガバナンスとコンプライアンス 6. リスクの知識と情報セキュリティ 7. コントロールの知識 8. 不正行為と内部監査の役割 9. リスクベースの年度監査計画の立案 10. 内部監査の品質保証 11. 個別監査の監査計画の策定 12. 個別監査の実施と結果の伝達 13. 監査結果のモニタリング 14. CIA (公認内部監査人) の価値と取得への捷径 | | |
| 成績評価の方法 | 課題レポートの提出と審査 | | |
| 使用テキスト | 日本内部監査協会発行 GLEIM CIA Review Part I 及び Part II (日本語版) | | |
| 参考書(参考資料等) | 内部監査を活かす術—プロがあかす監査業務の38の極意 | | |
| その他 (受講生への要望など) | 本講座は、女性の内部監査人の育成をめざす日本で唯一の講座で、社会の求めるニーズと皆さんの新たな可能性の架け橋となるものです。 | | |